

森に深く入り込まなくても、きみたちの住む家の近くにやってくる鳥を観察することで、ずいぶん自然の勉強になります。例えば、冬の間、毎日エサをやり続ければ、鳥の方からこちらに近寄ってきてくれるかもしれません。さらに運が良ければ、家の軒下などに巣作りをしてくれる場合もあります。身近に見られる鳥では春に繁殖期となるものが多く、子育ての様子を観察するのはとても面白い。でもあまり巣に近づけないのがつらいところでもあります。



大気汚染や農薬、生活排水による河川の水質悪化、それによるエサの減少など、自然環境は年々野鳥たちが住みにくくなっています。野鳥が住みにくい環境は、人間にとっても良いとはいえません。野鳥観察をきっかけとして、環境問題について考え、仲間で話し合ってみましょう。

ボーイスカウト BIRD WATCHING



モズ



ウグイス



オオマシコ



カワセミ

野鳥を観察しよう!

生態を学び環境の保全を考えよう

森の活動の中で、誰でもいつからでも始められるのが野鳥の観察です。小さな双眼鏡と手軽な図鑑、メモ帳などを用意すればよいのです。姿の美しさ、鳴き声、動作など野鳥の魅力は数多く「バードウォッチング」は欧米では奥の深い、味わいのある紳士のレジャーとして広く認知されています。

翼を広げ、優雅に敏捷に空を飛ぶ鳥の生態には、実に興味深いものがあります。季節ごとに期間を区切って観察を続けていると、いろいろな種類の鳥に出会うことができます。双眼鏡を通して野鳥を眺めていると、1年の生活周期だけでなく、自然の仕組みのいろいろなことを学ぶことができます。観察を続けているうちに、鳴き声や飛び方で多くの種類の鳥を見分けることができるようになります。

これからの秋から冬にかけては、水辺や干潟での観察がおすすめです。たくさんの渡り鳥が集まってくるからです。観察に出かける前には、鳥の図鑑を調べ、比較的良好に見られるとされる鳥の種類、姿、大きさ、名前などを覚えておくと良いでしょう。どんなところに行けば効率よく野鳥に出会えるか、「バードウォッチング」のコツを習得するためには、『日本野鳥の会』が主催する、「探鳥会」に何度か参加してみるのも一つの方法です。ベテランの人から基本的なことを教えてもらうのが上達の近道かもしれません。

スカウトは野鳥に対して、上手に忍び寄る術も身につけておかなばなりません。そうすることで、どこにどうやって巣を作るのかを見つけることだってできます。

大きな口を開いて、ピーピーと鳴きながら親鳥からエサをもらうひなの姿を観察できるほど近くまで忍び寄りができるのであれば、最高に楽しいかもしれません。しかし鳥たちは非常に敏感でデリケートだということを忘れてはいけません。余計な刺激を与えないよう、くれぐれも注意しなくてはなりません。

双眼鏡を選ぼう

双眼鏡を選ぶ場合は、野鳥の観察という目的で使うことを考えに入れておく必要があります。野外で重量のある双眼鏡を持ち歩くのは、想像以上の負担となります。倍率は7~9倍程度のものが最適です。長時間手に持って鳥を眺めるので、できるだけ軽量でコンパクトなものがよいでしょう。

